短報

佐久島でのグリスロ実証事業

――移動手段を持たない住民や観光客の利便性向上

［愛知県佐久島］

本誌編集部

島内移動の課題解決に向けた実証

佐久島（愛知県西尾市）は、本土側一色港から南へ四・七キロメートルに位置する三河湾最大の島である。東西の二つの港を中心にそれぞれ集落が形成され、狭い路地に大正から昭和に建てられた民家が密集している。令和二年国勢調査の人口は一九六人で、そのうち五五・四パーセントが高齢者。人口減少に反比例する形で高齢化率は増加傾向にある。

一方、平成七年の「よい風が吹く島が好き女性委員会」（国土庁）の調査をきっかけに、アートを活用した島づくりに取り組んできており、近年では若い世代を中心に人気を集めている。年間約一〇万人の観光客が島を訪れ、点在するアート作品めぐりを楽しんでいる。

島内の移動手段は限られており、住民は軽自動車および原付バイク、自転車が中心。観光客は徒歩またはレンタサイクルが主となっている。佐久島にはバスなどの公共交通機関がないため、車やバイクに乗れない住民（特に高齢者）や観光客、小さな子どもがいる家族などの移動が課題となっている。

この課題解決に向けて西尾市では、グリーンスローモビリティ（以下、グリスロ［※1］）の導入を検討。今年度、交通エコロジー・モビリティ財団（以下、エコモ財団）の「離島グリスロ試走・実証調査（詳細は本誌二七三号参照）」の採択を受け、令和五年八月一日から二一日までの期間、グリスロ一車輌を導入し、島の東側と西側の集落を周回するルート（約四・七キロメートル）における試走・実証を行なった。

平日――住民の足として

市の申請計画によると、グリスロ活用の目的の中心は、住民生活の利便性の向上（交通弱者対策）である。実証期間中、平日は住民のみを対象として運行した。当初は定時定路運行のフリー乗降で、住民（利用者）に運行ルート上まで出てきてもらう計画であった。しかし、夏場での実証となったため、猛暑のなか停留所まで足を運ぶ住民はほとんどなく、利用が伸びなかったという。そこで、電話予約制にして運転者（市職員や地域おこし協力隊など三～四人態勢）が利用者の家付近まで迎えに行き、そこから希望場所まで送り届ける形に変更した。

西尾市佐久島振興課の三矢由紀子課長補佐は「家からの送迎に変えてからは、一日に二～三件程度の予約が入るよ

うになった。自宅から農協や診療所などへ行く住民が多い。診療所の先生には、高齢者の熱中症対策にもつながる、との評価をいただいている。床屋へ行くために利用する住民もおり〝ちょっとそこまで〟という感覚で使ってもらえるようになってきている」とグリスロ導入の効果について話す。

佐久島での試走・実証の様子。

休日――新たな観光メニューとして

今回の実証では、観光客の移動手段としてのグリスロ活用も柱の一つに位置づけられており、土日祝日を観光客向けに予約制で運行した。グリスロの特性を活かし、運転手をガイドに島の北側にあるアート作品をめぐるツアーも企画。一回一組限定（午前・午後に一回ずつ催行）として市の広報などで募集をかけたところ、すぐに予約で埋まったという。

西尾市内からこの企画に参加した家族連れは「（グリスロは）すごく快適だった。暑い日でも動けば風が当たって涼しく、スピードがゆっくりなので運転手のガイドを聞きながら、島の自然を感じられるのが良かった」と感想を寄せた。

三矢課長補佐によると「島内を走るグリスロを見て、関心を持たれる観光客が増えている印象。グリスロの速度感・サイズ感・環境配慮面が佐久島の現状とマッチしていて、住民と観光客の移動手段として親和性が高いことが確認できた」と実証の成果について語った。

グリスロに関心のある島の皆さまへ

日本離島センターでは離島でのグリスロの活用の普及を目的に、本稿で紹介した佐久島での試走・実証の模様を映像にとりまとめた。本財団ＨＰ［※2］にて視聴可能（一〇月公開予定）なので、グリスロ活用に関心のある島の皆さまはぜひご覧いただきたい。

また、エコモ財団では、「離島グリスロ試走・実証調査」に限らず、グリスロに関心のある離島関係市町村からの相談を受け付けている。ぜひお問い合わせいただきたい。

（森田）

※1：時速二〇キロメートル未満で公道を走行できる電動車を活用した小さな移動サービスおよびその車両も含めた総称。

※2

グリスロの導入・活用に関する
ご相談・お問い合わせ
公益財団法人
交通エコロジー・モビリティ財団
電話：03-5844-6268
（交通環境対策部交通環境企画課）